マナビエ
MANABIE

記述の設計図　第4部 4つの型

U11　まとめ・対比型（共通点・違い・変化）

ベーシック

対象：小学5年・偏差値55〜60

1. 要点（ルール）
2. 例題　物語文「四人の旗」
3. 練習1・練習2（解答らんつき）
4. 解答と採点表

要点　まとめ・対比型のルール

R11-1　3つのタイプを見分ける

設問を最後まで読んで、どれを聞かれているかを決める。①共通点（AとBの同じところ）②違い（AとBのちがうところ）③変化（前と後でどう変わったか）。

R11-2　まとめた部分からさがす

答えは、具体例そのものではなく、具体例をまとめた部分から作る。「つまり」「このように」のあとは、まとめた部分であることが多い（多くの場合の話）。まとめた部分が無いときは、具体例に共通することを自分の言葉でまとめる。見つけたら、前の具体例と中身がずれていないか読み合わせて確かめる。

R11-3　違いは「反対の言葉」で向かい合わせる

同じ観点（何について）で、反対の言葉をならべる。「Aは〇〇だが、Bは△△だ。」の形にする。観点がずれていると、違いを言ったことにならない。

R11-4　共通点は「どちらにも言えるか」テスト

見つけた共通点を、Aに当てはめて読み、Bにも当てはめて読む。両方に言えたら共通点。片方にしか言えないことは入れない。

R11-5　変化は「前→きっかけ→後」

変化は、前のようす・変わったきっかけ・後のようすの3つで書く。前と後は反対の言葉で向かい合わせる。本文に書いていないこと（根拠のない要素）は入れない。

R11-6　文のおわりは最後に整える

まず中身（観点がそろっているか・どちらにも言えるか）を点検してから、文末を問いに合わせる。「どのような点」→「～点。」、「どう違う」→「Aは～が、Bは～。」、指定の形があればその形。採点は要素ごとの点で、字数を1字でもこえると採点されないことが多い。

ルールの番号（R11-〇）は、講座全体の通し番号です。動画・Webページ・このPDFで同じ番号を使っています。

例題　物語文「四人の旗」

① 運動会まで、あと一週間。五年二組の旗をつくる係になったリナは、毎日、放課後の教室に一人で残って、大きな布に絵をかいていた。

② 「リナ、手伝おうか。」同じ係のソラが声をかけた。

③ 「だいじょうぶ。係長はわたしだから、わたしがやる。」

④ リナは、人にたのむのは、自分ができないとみとめるようで、はずかしいと思っていた。ソラは少しさびしそうに、教室を出ていった。

⑤ けれども、旗は思うように進まなかった。三日たっても、まだ半分も色がぬれていない。リナの手は絵の具でかさかさになり、目の下には、うっすらとくまができた。

⑥ 四日目の放課後、教室に入ると、ソラと三人の友だちが、筆を持って待っていた。「先生に聞いたよ。ぼくたち、空の青をぬるね。」

⑦ リナは何か言おうとしたが、言葉が出なかった。四人は、リナが考えた下絵のとおりに、ていねいに色をぬっていった。ソラは、リナが思いつかなかった、雲の白いふちどりまで足してくれた。

⑧ 金曜日の夕方、旗はできあがった。広げてみると、リナが一人でかいていたときよりも、ずっと明るく、にぎやかに見えた。リナは、しばらく旗の前から動けなかった。

⑨ 次の週、学芸会のかざりを決める話し合いで、リナは自分からソラのほうを向いて言った。「ねえ、ここ、手伝ってくれる？」

問　――線部「ねえ、ここ、手伝ってくれる？」とありますが、旗づくりを通して、リナの考えはどのように変わりましたか。「はじめは～が、～。」の形で、六十字以内で説明しなさい。

解き方

1. **手順1　タイプを見分ける**
   「どのように変わりましたか」＝変化のタイプ（R11-1）。前のようす・きっかけ・後のようすの3つを集める（R11-5）。
2. **手順2　前の考え（④段落）**
   「人にたのむのは、自分ができないとみとめるようで、はずかしい」。だから「わたしがやる」と一人でかいていた（①③）。
3. **手順3　きっかけ（⑥～⑧段落）**
   友だちが手伝ってくれて、一人でかいていたときよりも、ずっと明るい旗ができた。
4. **手順4　後の考え（⑨段落）**
   ――線部で、リナは自分から「手伝ってくれる？」とたのんでいる。＝人にたのんでもよい・たのむとよいものができる、と思うようになった。

5. 手順5　反対の言葉で向かい合わせる

前「人にたのむのははずかしい」⇔ 後「人にたのんでもよい」。行動(一人でかいた⇔たのんだ)だけでなく、聞かれている「考え」で向かい合わせる(R11-3)。指定の形「はじめは～が、～。」で終える(R11-6)。

要素表(材料を集める)

要素	中身	根拠	入れる？
前の考え	人にたのむのは、自分ができないとみとめるようで、はずかしい	④	◎ 入れる
きっかけ	友だちが手伝ってくれて、一人のときより明るい旗ができた	⑥⑦⑧	○ 入れる
後の考え	人にたのんでもよい(自分からたのめるようになった)	⑨	◎ 入れる
具体的なようす	手がかさかさ・目の下のくま	⑤	△ 書かなくてよい
根拠なし	ソラと親友になった／絵が上手になった	なし	× 入れない

模範解答

模範解答　59字／60字以内

はじめは、人にたのむのははずかしいと思っていたが、みんなでかいた旗のよさを知り、人にたのんでもよいと思うようになった。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
前と後の考えを、反対の言葉で向かい合わせている(はずかしい⇔たのんでもよい)	5点
きっかけ:みんなで作ると、一人のときよりよい旗ができた	3点
「考え」の変化として書いている(行動だけで終わらない)	1点
「はじめは～が、～。」の形で書いている	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「はじめは一人で旗をかいていたが、みんなでかいた。」	行動だけで「考え」が無い。前と後の5点のうち2点。
「人にたのんでもよいと思うようになった。」	後だけで前が無い。向かい合わせになっていないので、5点のうち2点。
「はじめはソラがきらいだったが、親友になった。」	本文に書いていない(根拠なし)。0点。
指定の形「はじめは～が、～。」になっていない	形の1点を引く。
六十一字以上	字数オーバー。採点されないことが多い(0点)。

練習1　説明文「チーターとオオカミ」

① チーターとオオカミは、どちらもほかの動物をつかまえて食べる、肉食の動物だ。けれども、二つの動物の狩りのしかたは、まるで正反対だ。

② チーターは、草むらにかくれて、えものにそっと近づく。そして、あと少しというところで一気に飛び出し、時速百キロメートル近い速さで走って、つかまえてしまう。ただし、この速さで走れるのは、ほんの数百メートルだけだ。それより長く走ると、体が熱くなりすぎてしまう。

③ オオカミは、五ひきから十ぴきほどの群れで狩りをする。オオカミの足は、チーターほど速くはない。そのかわり、何キロメートルも走りつづけることができる。群れの仲間とかわるがわる、えものを追いかけ、えものがつかれて動けなくなるのを待つのである。

④ すむ場所もちがう。チーターは見通しのよい草原にすみ、オオカミは、森や山にもすんでいる。

⑤ つまり、チーターは一ぴきで、短いきょりを速さで勝負し、オオカミは群れで、長いきょりをねばり強さで勝負するのだ。どちらのやり方にも、自分の体に合った、うまいくふうがある。

問　――線部「狩りのしかたは、まるで正反対だ」とありますが、チーターとオオカミの狩りのしかたは、どのように違いますか。「チーターは～が、オオカミは～。」の形で、五十字以内で説明しなさい。

① 要素表を書こう

要素（観点・共通点・前と後）	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40
									50										

50字以内（1マスに1字。句読点も1字）

練習2　物語文「ふたりの手」

① 夏休み、ぼくは、祖父の家の工房で、竹のかごを編む祖父の手を見ていた。祖父は毎日一つずつかごを編み、編み終えるたびに、目のあらいところを指でなぞって、「ここが、まだまだだな」とつぶやいた。

② 「もう五十年も編んでいるのに、まだまだなの？」とぼくが聞くと、祖父は笑って、「昨日より少しでもよくなれば、それでいいんだ」と言った。

③ 家に帰ると、高校生の姉が、居間でバイオリンをひいていた。姉は、同じ八小節を、もう三十分もくり返している。

④ 「同じところばっかり、あきない？」

⑤ 「あきるよ。でも、昨日ひけなかったところが、今日は少しだけひけるようになったの。」

⑥ 姉はそう言って、楽ふのはしに小さな丸をつけた。丸は、もう、ページのはしにずらりと並んでいた。

⑦ 祖父のかごと、姉のバイオリン。二つは、まるでちがうものだ。けれども、その夜、ねる前に思い出したのは、かごの目をなぞる祖父の指と、姉の小さな丸だった。ぼくには、二人の手が、どこか同じように見えてきた。

問　――線部「二人の手が、どこか同じように見えてきた」とありますが、「ぼく」は、祖父と姉のどのような点が同じだと感じたのですか。四十字以内で説明しなさい。

① 要素表を書こう

要素（観点・共通点・前と後）	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40

40字以内（1マスに1字。句読点も1字）

解答と採点表

練習1　説明文「チーターとオオカミ」

解き方

1. **手順1　タイプと観点**
   「どのように違いますか」＝違いのタイプ。観点は「狩りのしかた」。すむ場所（④段落）は観点がちがうので使わない（R11-3）。
2. **手順2　まとめた部分をさがす**
   ②③段落は具体例（時速百キロ・何キロメートルも）。⑤段落の「つまり」のあとが、それをまとめた部分（R11-2）。
3. **手順3　読み合わせる**
   ⑤の「短いきょりを速さで」は②の「数百メートルだけ・時速百キロ」と合う。「長いきょりをねばり強さで」は③の「何キロメートルも・つかれるのを待つ」と合う。ずれていない。
4. **手順4　向かい合わせる**
   一ぴき⇔群れ／短いきょり⇔長いきょり／速さ⇔ねばり強さ。同じ順にならべて「チーターは～が、オオカミは～。」で書く。

要素表

要素	中身	根拠	入れる？
観点1　だれで	チーター＝一ぴき ⇔ オオカミ＝群れ	⑤（②③）	◎ 入れる
観点2　どれだけ	短いきょり ⇔ 長いきょり	⑤（②③）	◎ 入れる
観点3　何で勝負	速さ ⇔ ねばり強さ	⑤（②③）	◎ 入れる
具体例	時速百キロメートル・数百メートル・何キロメートルも	②③	△ まとめた言葉で書く
観点ちがい	すむ場所（草原／森や山）	④	× 入れない

模範解答

模範解答　49字／50字以内

チーターは一ぴきで短いきょりを速さで勝負するが、オオカミは群れで長いきょりをねばり強さで勝負する。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
勝負のしかた:速さ ⇔ ねばり強さ を向かい合わせている	5点
一ぴき⇔群れ・短いきょり⇔長いきょり を向かい合わせている	3点
「チーターは～が、オオカミは～。」の形	1点
すむ場所など、狩りのしかた以外の観点を入れていない	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「チーターは速く走るが、オオカミは群れでいる。」	観点がずれている(速さ と 人数)。向かい合っていないので、5点のうち2点。
「チーターは草原にすむが、オオカミは森にもすむ。」	狩りのしかたではない観点。0点。
「チーターは時速百キロで数百メートル走るが、～」	具体例のまま。字数が足りず、オオカミの側が書ききれないことが多い。

練習2　物語文「ふたりの手」

解き方

1. **手順1　タイプ**
   「どのような点が同じ」＝共通点のタイプ(R11-1)。文末は「～点。」にする(R11-6)。
2. **手順2　まとめた部分はある？**
   この文章には「つまり」のようなまとめの文が無い。祖父の話(①②)と姉の話(③～⑥)に共通することを、自分の言葉でまとめる(R11-2)。
3. **手順3　どちらにも言えるかテスト**
   「同じことを何度もくり返す」→祖父(毎日一つずつ編む)にも姉(同じ八小節を三十分)にも言える＝○。「昨日より少しでもよくなればよい」→祖父②にも姉⑤にも言える＝○。「五十年も続けている」→祖父だけ＝×。
4. **手順4　まとめる**
   かご・バイオリン(具体例)は書かずに、二つの共通点をつないで「～点。」で終える。

要素表

要素	中身	根拠	入れる？
共通点1	同じことを何度もくり返している	①③	○ 入れる
共通点2	昨日より少しでもよくなることを大切にしている	②⑤	◎ 入れる
片方だけ	五十年も編んでいる（祖父だけ）／楽ふに丸をつける（姉だけ）	②⑥	× 入れない
根拠なし	二人とも有名になりたい	なし	× 入れない

模範解答

模範解答　37字／40字以内

同じことを何度もくり返し、昨日より少しでもよくなることを大切にしている点。

採点表

採点表（要素ごとの配点）	点
昨日より少しでもよくなることを大切にしている	5点
同じことを何度もくり返している	3点
かご・バイオリンなどの具体例を書かずにまとめている	1点
文末が「～点。」	1点
合計	**10点**

減点の型（こう書くと）	何点になる？ なぜ？
「かごを編むこととバイオリンをひくこと。」	具体例をならべただけ。同じところを言っていない。0点。
「長い年月、一つのことを続けている点。」	姉は五十年も続けていない（片方にしか言えない）。0点。
「同じことをくり返している点。」	共通点1だけ。10点中5点（3点＋形の2点）。

マナビエ
MANABIE

記述の設計図　U11 まとめ・対比型（ベーシック）

© MANABIE　無断転載・複製・改変・再配布を禁じます